

# 回 想

安 田 修 一

## プロローグ

休日のひととき、机に向かつてペンをとる。昭和三十一年から八年間、東京慈恵会医科大学の第一内科で、上田英雄、高橋忠雄両教授の指導の下に、診療と研究に従事していた日のことが脳裡に浮かぶ。朝八時からの教授回診や夜の動物実験。中央検査室はなく、研究室の片隅にチセリウスの電気泳動装置があつて、仲間たちと血清蛋白分画の測定を分担していた。それから五十年が過ぎた。

昨年と同様、自然の風景、医学の歴史、診療メモ、かつて読んだ本、映画のストーリーなどで、今一度、断片的な文章を書いてみたいと思つ。

ティタンのイーアペストには、四人の息子があつたが、メノイティオスとアトラス（アフリカ北西のアトラス山脈の語源、それより西の海がアトランティック・オーシャン、大西洋）は、反乱に加わったということでゼウスから罰をうける。プロメテウス（先に考える者）は、ゼウスが優勢であることを知つてゼウスに味方したので、オリュンポスの神の仲間に加わることを許される。エピメテウス（後で考える者）は、兄の勧めに従つたので追放を免れた。

ある日、館で会があり、プロメテウスは食事の分配係を務めた。一方には、脂肪に富んだ肉と内臓を牛の胃袋につめておき、他方に、肉のついていない白い骨をつやかな脂肉でくるんで並べた。ゼウスは、先に選ぶようにすすめられ、うまそうに見えるが食べることの出来ない骨の方をとる。王は怒り、肉と内臓を得た人間たちが料理するための火を隠してしまつ。人類を創造したプロメテウスは、アテナ（知恵の女神）の手引きでオリュンポスに忍びこみ、火のついたままの炭を大茴香の茎の中に隠して地上に持ち帰つた。

## 肝臓の古い話

ギリシャ神話によれば、ギリシャの北方、テッサリアにあるオリュンポスの山頂に、ゼウス（語源は「天空」）を意味す

ために、ゼウスは妙案を思いついた。美女をつくり、パンダラと名づけて、エピメテウスの所に贈つたのである。「これは、ゼウスの陰謀だ。送り返した方がいい」とアロメテウスは弟に忠告したが、エピメテウスはパンダラの美しさに魅せられ、



『ギリシャ神話』(岩波新書) 高津春繁著から

くり、パンダ  
る。「されば、  
メテウスは弟  
に魅せられ、  
妻にしてし

神々から贈物の壺を持参していた。好奇心からこの壺

を開けた途端に、それまで地上に存在しなかつた、あり

とあらゆる災いや疾病が飛び出したのである。しかし、彼女が急いで蓋をしたので、ただ一つ「希望」だけが残った。プロメテウスは、ゼウスの王位を危うくする秘密を知つていた。ゼウスは、それを明らかにするよう迫つたが、彼は、その命令に従つなかつた。

「悪魔か夜来る」という映画があった。15世紀、中世のフランス。悪魔は人間たちを絶望させようと、一人の者を地上に遣わした」という字幕と共にこの映画は始まる。

古い時代の物語が、芸術家によつて、再現されることがある。例えば、ベートーヴェンの作品に「プロメテウスの創造物」というバレエのための音楽があり、その中の序曲が、今日、演奏会の曲目となつてゐる。又、ルーベンスの絵画に「鎖に繋がれたプロメテウス」がある。

ゼウスは激しく怒り、プロメテウスを世界の果て、コーカサスの岩山に鎖で縛りつけ、大鷲を送つてプロメテウスの肝臓を食い荒らさせる(図)。毎晩食べられた肝臓は夜の間に再生するので、毎日、食べにやってくる。プロメテウスの苦しみは、やむことがなかつた。しかし、ついに時が至り、英雄ヘラクレスが大鷲を射落とし、プロメテウスを救つのである。

紀元前一〇〇〇年頃、チグリス河とユーフラテス河にはさまれたメソポタミアは、世界文明の中心として栄えていたが、そこに住むバビロニア人とアッシリア人は、肝臓に生命が宿ると考えていた。又、紀元前五世紀、古代ギリシャのプラトンは、肝臓が知的精神、思考力を映し出す鏡であるとのべて

男爵の城で、娘アンヌと騎士ルノーの婚約の宴が開かれていたとき、吟遊詩人に化けた悪魔の使者、ジルと男装したドミニクが訪れる。彼等は、悪魔の命令によつて、城を不幸に落とし入れるためにやつて来たのだが、ジルとアンヌは一旦で恋に落ちてしまつ…………。庭園に小鳥がさえずり、清らかな泉のほとり。思い出の場所で、アンヌとジルはたたずんでいる。美しい音楽の流れ。悪魔が現われ、意に従わない二人を石にしてしまつ。

「何だろう？ 何の音だ？ 心臓の音だ。打つてゐる、心臓が打つてゐる、打つて、打つて」「止まれ、止まれ、止まれ……」と叫びながら、石像を打ち続けると、さうしてラストシーンは終わる。

マルセル・カルネ監督によるこのフランス映画は、一九四一年、第一次大戦中に発表された作品で、悪魔によつて石像にされてしまつたジルとアンヌの恋人たちが刻む心臓の鼓動に、ドイツの占領下にあっても失われることのないフランス人の自由への願望を象徴させているといつて、古代ギリシャの時代、紀元前四世紀に生まれたアリストテレスは、心臓を知性の座と考えていた。脳は、単に心臓を冷



やすためのものであり、この冷却の過程は粘液 (Pituita) の分泌によつて効果をあらわすとされた。この粘液は、下垂体の名称となつてゐる。更に遠い昔、中国の皇帝、黄帝 (紀元前二六九八～二五九八) は、「内經」という医学書の中で、「人體内の全血液は、心臓の支配下にあり、心臓によって調節されてゐる。血液は絶えず循環して流れており、止まることがない」と記述している。

又、「心臓は王であり、肺はその大臣たちである。また、肝臓がその裁判官である。そして、脾臓が五感を支配し、三つの熱胞、すなわち胸腔、腹腔、および骨盤が老廃物を始末する」と生理学を面白く説明している。

長い年月を経て、一六一八年、英國のウイリアム・ハーヴィイは、「太陽が宇宙の心臓であるよつて、心臓は生命の源泉であり、『小宇宙』の太陽である」とのべ、血液循環の原理を発表する。一八五七年に、ドイツの生理学者ヨハネス・ミコラーとルドルフ・アルベルト・ケリカーによつて、心臓の拍動で電気がおこるこ

とが証明され、一九〇三年、オランダのアイントーヴンにより、人体における心電図の記録が成功したのである。

直径五ミリの小さな結節が、心臓のリズムを作り出している。長年の間、心臓の音をはつきり聞きとりたいと望んでいた人がいた。その人の名は、ルネ・テオフィル・イアシント・ラエンネック（一七八一～一八二六）。彼は、ある日、ルーヴル宮殿の中庭を歩いていたとき、一人の少年が板の一方の端に耳を押しつけ、もう一人の少年が他の端を釘で叩いて送つてくる信号に聞き入つてゐる姿を見た。

彼は、大急ぎで病院に帰り、一帖の紙を円筒状に捲き、一端を患者の胸に当て、他端に耳を押し当てる。すると、心臓の音が非常にはつきり聞こえた。更に、紙筒を曲がった木製の筒にとりかえたところ、もっとよく聞こえたようになった。彼は、この木の筒を聽診器（ストリスコープ）と名づけたのである。

映画「悪魔が夜来る」の中に、美しい音樂があつた。ギリシャ神話に登場するアポロンは、医学の神であり、音樂と詩歌を司る神である。医師で詩人のスコットランド人、ジョン・アームストロングは、このことについて次のように述べている。

「音楽は、全ての喜びを高め、全ての悲しみを静め、諸病を追い払い、あらゆる苦しみをやわらげてくれる。そして、そ

れ故に、古の賢者たちは、医学と音樂と詩歌との不可分の力を崇拜したのだ」

祖国を限りなく愛したピアノの詩人、楽聖ショパンの心臓は、ポーランド・ワルシャワの教会に納められている。彼の音樂は、永遠に入々の心に安らぎを「与えてくれる」といひつた。

### 脾臓

永井隆という人がいた。彼の著書「この子を残して」の中に、次のような記述がある。

「脾臓がのさぼつて胃腸や心臓をおしつけてるので、食物は多くは入らず、腸の通りは悪く、息切れはする。妊娠十ヶ月の婦人が肩で息をついているのと同じだ。妊娠の方はやがて赤ちゃんが生まれたらめでたしめでたしだが、私の脾臓は出てゆかない……」「腹のまわりが、へその高さで九一センチ。これ以上は皮が伸びないところまで膨れています。これは脾臓が途方もなく大きくなっているからである……。私の腹の左半分全部を占領してまだ余り、へそを越して右の方へかなりのさばつて出でている」

彼は、長崎医大の物理療法科の医師であり、原子爆弾で被爆し、慢性骨髓性白血病でその生涯を閉じた。

古代ギリシャの昔、紀元前四六〇年頃に生まれた医学の父・ヒポクラテスは、人間の体内には四種類の体液があり、

心臓の血液、脳の粘液、肝臓の黃胆汁、脾臓の黒胆汁が調和しているときは健康であると考えていた。ヒポクラテスの晩年に活動したプラトンは「肝臓の隣にある脾臓は、肝臓を常に明るく、ぴかぴかに磨いておくためのもので、それは鏡のそばのふきんのようなものであつて、汚れがたまるほど大きくなり、体が浄化されると小さくしばむ」と述べている。

又、紀元一世紀のローマ時代、ガレノスは「栄養に不適当な成分は、脾臓から管で胃の中に放出される」と語っている。この臓器の構造と機能が解明されるためには、その後の長い年月が必要だったのである。

白血病は、フランス人、ベルボーによつて、初めて症例が記録された。一八二七年のことである。そして、ドイツのウイルヒュウによつて、一八四七年に白血病という名称がつけられたのである。

長期間にわたるX線の被曝、原子爆弾や原発事故による多量の原子放射能は、白血病の病因となる。慢性骨髄性白血病は、腫瘍細胞の脾臓への浸潤によつて著しい脾腫をひきおこす。脾臓は、かつて、黒い胆汁を宿す憂鬱の座とされ、体内的黒胆汁が多くなると憂鬱症（メラン 黒い、コリー 胆汁）になると考えられていた。

## ホルモン

「冬来たりなば、春遠からじ」と英國の詩人シェリーは書いた。寒い冬がやがてくると、草や木は遠からず新しい季節が訪れる」とを知つてゐる。路旁に並ぶプラタナスの小枝であまたの薔薇があたかも小さな焰の如く、紅い光を放つてゐる。植物には、種々のホルモンが存在することが明らかになつた。花芽を作り出す花成ホルモン、フロリゲン、冬の間、花芽の成長を抑えるアブシジン酸というホルモン、このホルモンが徐々に減少して、春になるとジベレリンが登場し、芽や花の生長を促進する。

花が開いたり、閉じたりするのは、オーキシンの作用による。又、植物の枝分かれを抑える植物ホルモン「ストリコラクトン」が発見された。植物ホルモンは、果実の発育と密接な関係があり、トマトでは、初期にオーキシンが増加し、次いでジベレリン、最後に果実が着色し、成熟するときはアブシジン酸が増加するといつ。又、ジベレリン処理によつて、種無し果実が作られている。

春になつて日が伸びると、ウズラのオスで甲状腺刺激ホルモン（TSH）の分泌が増加するという記事があつた。

人体に約一〇ミリグラム存在する元素がある。大気中、土、海水、植物、動物に存在しているが特に海藻に多い。蒸気が紫色を呈する。人間が生命を維持するために不可欠。消毒作

用がある。その不足を補つために食塩に添加している国がある。あるホルモンの成分。それは、原子番号53の「ウツ素(I)」である。ウツ素の「Iodine」は、紫色を意味するギリシャ語に由来するという。Iの元素は、大部分が甲状腺ホルモンの成分となつてゐる。

生体の代謝を促進する甲状腺ホルモンには、サイロキシン( $T_4$ )とトリヨードサイロニン( $T_3$ )があり、甲状腺からは主として $T_4$ が分泌される。作用は $T_3$ の方が $T_4$ の約五倍強力であるといわれる。甲状腺ホルモンは、下垂体前葉の甲状腺刺激ホルモン( $TSH$ )、更に上位の視床下部の甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン( $TRH$ )などによつて調節されてゐる。

ホルモンといつて名前は、一九〇五年に英國の生理学者、スターイングによつて初めて使用された。ホルモンは、生物の機能を直覺めさせ、興奮させるという意味のギリシャ語に由来してゐるといつ。

甲状腺ホルモンは、冬になると分泌が亢進する。オタマジヤクシが蛙に変態するのは、Iのホルモンの作用によるといわれる。

「閑かさや音にしみ入る蝉の声」  
胆石症

これは、凝灰岩と呼ばれる多孔質の岩の中、蝉の声がしみこむさまを詠んだ松尾芭蕉の有名な句である。岩があり、蝉が鳴く自然の風景には、素朴な風情がある。

山の間に、さまざまの色や形や趣がある。渓谷の中の大きな岩が、年月を経て風化し、打ち砕かれ、押し流されば、やがて、石となり、砂となり、土となるであつた。又、胆石や土砂によつて、溪流が塞き止められたこともあるだつ。

水の中のあまたの物質が、いつの日か沈殿し、固化して、新しい石を作り出すこともある。

胆汁の流れは、川の流れにも似てゐる。胆石は、一五%の人があつて、いわゆる胆囊結石が多く、無症状のことが少くない。ある調査によれば、胆石症105062例中、総胆管結石症は19465例で、一八・五%を占めていたといつ。総胆管結石症は、緊急の対応を必要とする。胆石症の診断に、腹部超音波検査が行われる。胆石が描出されないことがあるので、疑わしい場合は、再検、精検が必要である。

蝉は超音波を出してこると言われる。

「体質が耐えられる以上に過多な栄養をとれば、病気を招く」とヒポクラテスは述べてゐる。

## 高血圧

単調な川の流れの中にも、よく見れば日々刻々変化して止まない色がある。まばゆい光や美しい空色の影をうつす静かな流れが、一陣の風と共に消え去り、降りしづく雨で水をかせを増せば、すさまじい力で周囲を圧倒することであらへ。

私たちの体内をめぐる血液の流れは、心の状態や食事や運動などのいろいろな要素によつて常に変化している。

表1 生活習慣と血圧上昇の頻度			
肥満	飲酒	喫煙	血圧上昇 (%)
-	-	-	5.4
+	-	-	17.6
-	+	-	8.7
-	-	+	8.5
+	+	+	25.0

ある職場の健康診断で、血

圧の上昇と肥満・飲酒・喫煙との関係を比較し、上表のような結果を得た。これらの三つの要素は、それぞれ独立して血圧上昇に関与しているが、複数の危険因子を有する場合は、危険因子が相乘的に作用することを示している。

「病生じては、心のつれひ、身の苦しみ甚だし。其上、医をまねき、薬をのみ、灸をし、針をさし、酒をたち、食をへらし、さまたまに心をなやまし、身をせめて病を治せん」とせんよりは、初めに内欲をこらへ、外邪をふせげば、病おこらず。後に薬と針・灸を用い酒食をこらへつつしむば、その

苦しみ甚しけれど、益少なし。万の事、始によくつつしめば、後に悔なし。養生の道、ひとれいかべの「ヒト」と益軒は養生訓の中でのべてい。

## 痛風

「足の親指 まれに踵や足首迫する様な、しめつける様な痛みである。」英國の医師トーマス・シテナムは、三十歳の時に痛風となり、この疾病の状況についてはじめてくわしく記載した。二百余年以前のことである。王侯貴族の病として知られ、ローマ皇帝やミケランジオ、ローランブス、ゲーテなど歴史的に有名な人物がこの病気をもつていたといふ。

痛風は、高尿酸血症によっておこる関節炎の発作で、激しい疼痛と腫脹と発赤がある。口突

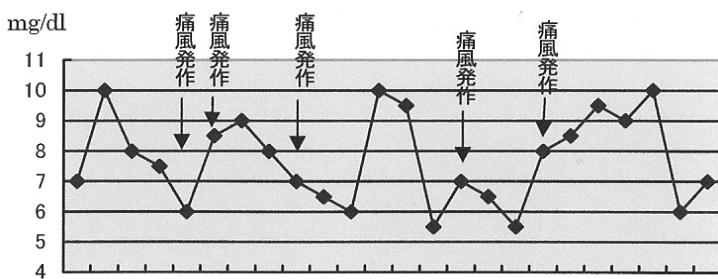


表2 飲酒量と尿酸値の増加の頻度

飲酒量	尿酸値の増加(%)
飲酒なし	9.3
1合	14.7
2合	25.1
3合	33.4

表3 肥満と尿酸値の増加の頻度

	尿酸値の増加(%)
肥満なし	6.9
肥満あり	22.9

表4 飲酒、肥満と尿酸値増加の頻度

飲酒	肥満	尿酸値の増加(%)
1合	+	26.9
2合	+	38.0
3合	+	48.5
全職員		17.7

## 回 想

ある記憶は、時を経ずして容易に忘却の彼方に消え失せる。苦しかったことが、あとになつて懐かしい思い出に変わることもある。しかし、年月の経過にも拘わらず、決して忘れることが出来ず、思い出したくない日々がある。あの惡まわしい戦争の三年八ヶ月と一週間、それは、何と長く感じられたことであろう。

ストーブに入れた石炭の煙が、薄暗い教室の中に立ち込めていた。信州の昭和十六年十一月八日。授業の休み時間に、誰かが戦争だと叫んだ。小学校五年生のときである。

それからの新聞の記事は、大本営発表、戦艦、空母、巡洋艦何隻撃沈、敵機何機撃墜などの戦果の連続であった。しかし、そのうちに「ガード、東部軍管区情報」とラジオが鳴り響いて、敵機の来襲を知らせるのみになつた。敵機はこんな型だ」というタイトルで、ボーイングB29とか、グラマンとか、コンソリーダーテッドなどの写真が掲載されたことを思い出す。

食料の配給は、一層厳しくなつて行った。

松本市立中学校の校長、田中長男は、その日も朝礼の訓示で、予科練や幹部候補生などの学校に行く上級生の名前を読み上げていた。学徒動員であった。教練といつ学課の時間になると、膝から下にカーキ色のゲートルを着用し、木製の銃を肩に担いで、一つ、軍人は忠節をつくすを本分とすべし。

(54頁の図と表2、および表3、4  
を参照)ある職場の健康診断から

「……」と呼称し、四列縱隊で市内を行進する。

中学生のとき、私たちは工場で働くことになった。勤労運動である。天井をクーラーが騒音を立てて往来していた。

ある日、小型のトロッカで工場の物品を工場の中へ運搬した。荷台に積んでいた薬品の中に「神薬」という名の小瓶があった。それは、強壮剤だったかも知れない。茶褐色の粘稠な甘い液体で、何人かがそれを口にそつ飲んだ

らしく、発覚した。若園中尉は、クラスの全員を集合させ、長い軍刀をチャラチャラさせながら、「お前らが上官の命令を何と心得るか!」と

工場での毎日をやでたまひの、一体こつまでも続けるのでもうつかと感つた。工の戦争は負けたと級友が言つた。やつて八月十五日、それは真実となつた。工の日、正午、直立してラジオに耳を傾けぬ。天皇は、特異のおぬいントネーハンの声で語りかけた。

放送が終わると、工のチャーチのよいな菓子が一枚配られた。このやつのものが、ヨリにあつたのだね。暑い日であった。

帰れば、いつも南松本といつ駅に行つた。陽炎の立ぬる並のレールの上に、小さな汽車が現われ、ゆっくりと上と左右にゆれながら近づいてきた。やつれりに来いの工はな。太平洋戦争は終わったのだ。

やつて、学校での新しさが始まる。本屋で参考書を購入する。赤尾好夫の英語の辞典の序文には、次のよつた文章があつた。

「永劫の炎を燃え立たせる油は、君が全身全靈をあげて努力する時の汗の中にのみ得られよ!」又

Where there is a will, there is a way.

を記憶つてこね。

映画「やよかせ」を見た。戦後第一作の工の日本映画は「赤くつぱり」、黙なせて、だまつてみてこね、青こ窓、コノゴはなでる、こねなこねれど、コノゴの氣持ねは、よくわかる。コノゴ同様にや、同様にやりノゴ……」とこゝの語るい歌謡によひて、工の国は平和が訪れた工とを知らせていた。やつて、「青い工脈」の歌や映画と共に、私の青春時代が始まりはじめていた。

### ヒュローグ

ディーンの詩人シルバーゼ 一七九六年、思想詩と呼ばれる作品の中でも、次のように述べてこる。

「詩の歩みには二様の相がある。未來はあるやかな足取りで近づき、現在は矢の如く飛び去り、過去は永遠に沈黙して立つてこぬ。……」



燕岳の近くの燕山荘から望む北アルプスの連山

あわただしく変化する現在の時をしばし離れて、過ぎたりし口のことを追憶の念をもつて書いてみたいと思つ。

### 信州・松本駅

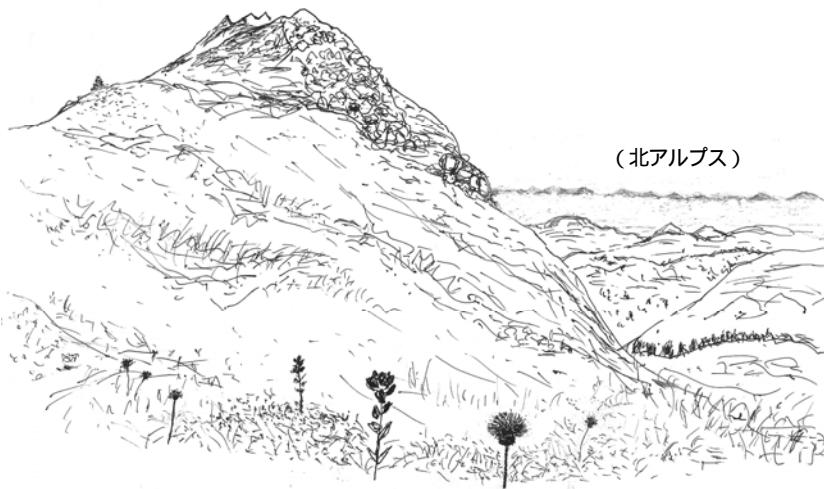
父母に 別れを告げし 汽車の窓むすび

信濃の山は 遠く去り行く

昭和三十年四月、私は国立東京第一病院（現在は国立国際医療センター）でインターンをするため、故郷を後にした。病院長の坂口康蔵先生は「諸君に望む」と題して、次のように述べたことを記憶している。

「私は、従来、患者に対する心がけとして、患者が自分の親兄弟、又は、妻子であった場合、如何なる診療や取扱いを受けたら満足であるかという事を常に念頭に置いて患者に接するよつこと、若い人々にも話し、自分でもこれを実行するよつに努めているが、その時代の医学で最善と一般に信じられてゐる事はやつてもらいたいが、やうすにすむ事、これはなるべくやつてもらいたくない。このことは、単に私のみでなく、凡ての人に共通な希望だと思つ……」

きびしい実地修練であつたが、新しい友人たちとの楽しい一百八十日であつた。記憶の糸をたどつて行くと、医学部の



(北アルプス)

ノアザミやオヤマリンドウやアキノキリンソウなど、色とり  
どりの花を前景に入れて、いつか一枚の絵を描こうと思う

学生時代が到来する。記念アルバムの中で、恩師が語りかけ  
る

「血運輝進」、「Step by step」、「Pilz の如く、如何なる環境  
」でも適応出来るふのな vitalie kraft を持つもの!」=

又、同級生の言葉が所狭しと記されたことだ。

「平山、雑誌の名にあひや」

「朝れる人間の最も美しい幸福は、究め得るものを探つ

くし、究められないものを静かにあがめる」こと(ゲーテ)。

更に遡つて行くと、昭和二十三年、高校は、新制高校第一  
回であった。担任の国語の先生から送られた葉書には、歌  
が書かれていた。

あかあかと 途ふみ出でて はるかなり  
「田修一 行き止まずやれ

多くの恩師と友人たちの言葉が、頭の中をかけめぐる。時  
は流れ、かつて、そこで過ごした家はない。私の故郷は、松  
本市の郊外で、家の前の小径にそつて小川が流れていった。あ  
たり一面に田畠が広がり、遠く北アルプスの山々が美しかつ  
た。

小川には、鯉やじょうが泳ぎ、大きな笊を持ち出しては  
川の中を歩きあわつたものである。少し離れたところに奈良

井川という川があり、泳いだり、ハヤを釣りに行つた。夏になると、萤の光が点滅し、夜空の星は限りなく美しく煌めいていた。又、秋には、稻子を取りたり、栗や胡桃を拾つて歩いた。

幼友達と庭でピーチやメンソード遊んでいた。家中から双葉山や羽黒山、名寄山などの相撲の実況を伝えるアナウンサーの声が聞こえてきた。村の祭りに行って、アセチレンガスのにおいがする夜店で綿アメを食べたり、舞台の余興や仕掛け花火を見た。

新年には、弟や妹と加留多や双六などで遊んだ。模型飛行機を組み立て飛ばして楽しんだこともある。家には蓄音機があり、右側のハンドルをまわし、針を入れてはレコードを聴いた。父と山や高原に行つた日のことを鮮明に記憶している。断片的な古い記憶の中で最も古く記憶はもしかしたら、母の歌つた子守唄「ねんねんこいりよ おひなつよ……」であるかも知れない。

私は、いま一般病院の内科で診療に従事している。休日には、演奏会に行つて聴いたピアノやヴァイオリンの匠たちの音楽に耳を傾け、楽しんでいる。いろいろのことがあったが、人生において重要なこと、それは、夢をもつて努力すること、人と人とのつながりが如何に大切であるかを知ること、そして、人間の力の限界について考えることであると思つて

い。

夏休みに、上信越高原国立公園にある山田峰に行つた。山道に近く築き立つ丘のはるか彼方に、北アルプスの連山みた。

ノアザニアやオヤマリンドウやアキノキリンソウなど、色とりどりの花を前景に入れて、一枚の絵を描いていたと思つていい。



(カツトシ『眞も筆者

# このちあつて

沼 口 満津男

「大丈夫ですか」という声で田をひらく。私は救急車の担架の上に寝かされていた。一瞬、どうしてこのよつなどいへば寝かされているのか分からなかつた。救急車のピー・ポ、ピー・ポといつ音が耳のそばで鳴つていった。私には自動車にとまされたといつ意識が全くなかつた。

今年定年退職になつたM氏の送別会の帰り道での出来事であつた。道路の真ん中で自動車にはねられ、小雨の降る道路に横たわつていた。さしていた蝙蝠傘はみる影もなく、ぐしやぐしやになり、かけていた眼鏡はとばされていたといつ。「どこか痛むといふはありませんか。頭は痛いですか」と救急隊員がたずねる。痛みは全然感じなかつた。豊島区の田白病院に行くところでの、医師会の会員である田中脳外科病院に運んでくれるよつお願いする。救急車の中に沢田君がなぜ乗車しているのが分からなかつた。

深夜の練馬を救急車がピー・ポ、ピー・ポと鳴らしながら走つ

てこののをおぼろげに覚えている。やがて病院に着いたが、どのよつな検査が行われたのか私は全然覚えていない。私の頭を撮影したCTの写真を医師が見せて、異常所見がないので帰宅してもよいといわれたことを覚えていく。

救急車のあとを追いかけて来た長男の俊介の自動車で練馬警察署の交通課に行く。加害者の運転手は二十四歳の青年であつた。たいした傷ではないことこので安心した様子であった。

沢田君とともに警察署で事情聴取されたとき、四メートル幅の道路は横断歩道がないので、二十メートル先の横断歩道を渡らなかつたのは君たちの不注意であつて歩行者にも罪があるといつ。どうも腑に落ちない。少し酒を飲んでいたので自動車の確認を怠つたのは我々の不注意ではあるが……。しかし、自動車が前方の歩行者の確認をしないで歩行者に怪我をさせて、双方に罪があるといつ。あまりにも杓子定規な考え方方に驚き果てて警察署を出た。沢田君は軽症なので文句をいわないことにした。

翌日、あちこちの体が痛みだした。左足の股関節部より左膝関節にわたつて広範な内出血と挫傷があり、また右股関節を中心にして内出血と挫傷がみられた。右脚は歩行にも難渋し曲げることもできないほどの痛みであつた。両方の脚の痛みは予想外にひどい。一ヵ月後、内出血は消えていたが、

未だに左股関節部のつぶくよくな痛みは、夜間においつてくれる。

しかし、八十路を過ぎた年齢で骨折もしないで、まがりなりにも動けるのは幸運であった。これはひょっとすると寒川神社の八方除けのお守りのせいかもしれない。

一ヶ月前、私の悪戯で元警察署長が、私の医院に来る途中、自動車にはねられ前頭部内出血をおこし、未だに入院加療中である。そのことを考えると、私の場合、神のお加護と私の持っている運で骨折もせずに軽く経過しているのが不思議なくらいである。

しかし、その後、道路で自動車が接近すると、理由もなくある恐れを感じ家かげに身を寄せらるよつた心境になる。更に私の人生観が、この事件を境にしてしらずしらずのうちに変化していくを感じる。

死はいつも私の近くにある。死はなんの前触れもなく近づいてくる。生と死は人生の表裏である。

生は一つの永遠の間の一瞬なり　　カーライル

八十歳を過ぎた私にとって、これからの一瞬一瞬は大切な時間である。永遠の未来と永遠の過去との間の限られた時間の重大さを知れば知るほど、私は一瞬の老後の生を楽しみ、この世に生きておられることを、神に感謝しなければいけない

## 我が代寺・妙香寺

横浜に「君が代寺」があると聞いて、四月のながば、山手駅付近の寺をたずねた。

駅前のタクシーの運転手に君が代寺といつても分からなかつた。「妙香寺」とつる覚えの名まえをこうと、運転手はその寺に私を案内してくれた。

横浜の山手地区は、坂の多い、丘のある町である。狭い道を通り抜けると、丘の上に山門が見える。寺の入り口の道の傍らに、「君が代発祥の地」と書かれた石碑があった。坂道を上りつめると、広い寺の境内に出る。法事でもあるのか、たくさんの自動車が駐車していた。境内のまわりに、大きな桜の木が何本も植えられていた。春の名残の八重桜の花弁が、海からの風に吹きつけられて、ちらほらと散つて、る浮世ばなれした静かな寺である。

庫裡の前の植えこみのなかに一つの碑が建つていた。一つは「君が代発祥の地」と赤く書かれた碑があり、一つは、長方形の銅版に軍楽隊の人々が刻みこまれ、石碑に「日本吹奏樂発祥の地」と書かれていた。

妙香寺は、弘法大師が西暦八一四年（弘仁二年）に創立し

た。その後、この寺は日蓮宗に改宗し妙香寺と名づけられた。

寺の敷地は百一十五町の広大なもので、立派なコンクリート建ての本堂・庫裡・書院・七つの堂の外に山門のそばに鐘楼がある。寺の裏手は小高い丘になつていて、たくさんの墓が立ち並んでいる。

この寺が、「君が代」とゆかりをもつよになつたのは明治一年である。禁裏警衛のため徵兵された薩摩藩の軍楽生三十名が、妙香寺に寄宿したのがはじまりであった。当時、この軍樂隊は、英國公使館の軍樂隊長フエントンに軍樂の伝習を連日この寺で受けていた。

ある日、フエントンが伝習生に国歌の必要性を説いたのがきっかけとなり、砲兵隊長大山巖（後の大山元帥）が中心となり、古今集より歌詞を選定し、作曲をフエントンに依頼した。明治三年九月、御前演奏したのが第一の「君が代」であつた。

しかし、この曲は讃美歌調で歌いにくいため、明治九年の天長節に廃止になった。

その後、明治十三年、宮中雅樂部でいくつかの曲が作られた。雅樂部長中村氏・陸海軍軍樂隊長・伶人林氏・独人工ツケルト氏など四人が審査委員となり、林氏の長男山季と奥好義と合作の曲が選ばれた。現代の雅樂風の日本的な曲である。これが第一の「君が代」で、現在歌われているのは第一の「君

が代」である。

明治十二年、第一の「君が代」の旋律が悪いところの文部省独自の立場から国歌を作成するより文部省取調係にて命された。三ヶ月後に、四編十一首に改めた「音楽取調係議案」を文部省に上申した。旋律は英國古代の大家ウェーバの古歌より選んだ。しかし、この第三の「君が代」は歌詞の流れと曲の進行が不一致のため、国歌としての気品が全くなかつた。これが第三の「君が代」である。

「君が代」の歌詞は古今和歌集卷七の賀部にある読み人知らずの歌である。「我が君は千代に八千代にさざれ石の巖となりて苔の産すまで」

この歌は、むかしから神前や仏会で歌われ、鎌倉時代に「君が代」が「君の世」となり、室町時代に「君が代」に定着し、明治まで伝えられてきた。

第一次大戦後、「君が代」の歌詞は、封建的で君主制の名残りがあり、民主的でないといわれた。そのうえ、戦争中の軍人専制的印象がつよく、一部の人から国歌にふさわしくないと非難された。

たしかに、戦争中、日の丸の旗と「君が代」が戦意高揚のため使用されたことは事実である。一部の人が軍部ばかりでなく、国歌への不信感を抱くのももつともなことと思つ。戦後の日本は、自由主義国家であるから、イデオロギーの

違いにいろいろの意見を述べることは自由である。共産国のように、これらの方を画一化する必要もない。

しかし、日本で生まれ、日本で育ち、日本に住んでいる日本人であることを自覚すれば、国旗をかかげ、「君が代」を歌うこととはあたりまえのことである。

昭和五十一年、小中学校学習指導要領改訂の際、「君が代」は正式の国歌と明記された。それにも拘らず、「君が代」を歌わず、国旗をかかげることをしない一部の小中学校のあることは、日本人として不思議な思いがする。

どこの国人の人でも、自分の国を誇りに思わない人はいないであろう。外国のオリンピック会場で、日の丸の旗がするするとあがり、「君が代」の曲が会場に流れるとき、胸にこみあげてくる感動を私は忘れることができない。

「君が代」廃止論の窓面のほとんどが歴史的視野からの展望を欠き、単なる感情論に終始して、「君が代」(君)についての戦争責任だけを問題視する議論が自立っている。……と、「三つの君が代」のあとがきに書いている著者内藤孝敏氏の考へに、日本人として、私は、ふかい共感を覚える。

表紙の作者紹介 有馬清徳先生は早くから、写真家としても、一科展などに入選。現在は日本写真作家協会会員。日本光画会審査員として活躍です。

## 表紙の言葉

「尾根錦繡」 有馬清徳(西宮市)

奈良県上北山村、国道169号線を南下し、大台ヶ原登山道入口を通り過ぎ長いトンネルを抜け約30分、国道309号線の標識に従い右折、行者還トンネル方向に入る。四駆車なら充分登れる山道を40分、少しキツい勾配の左カーブを登りきったところが写真の撮影ポイントです。

標高700メートル、道の対面に見える深い杉林の尾根の数々に、見事な紅葉の帯が描かれます。もともとは、山林所有者の持分境界であったとのこと。この撮影には、紅葉のタイミング、撮影時間帯、光線状態などを知るためロケハンが必要で、あとは如何に切り撮るかが鍵になる場面です。

# 一羽のカラスの対話



藤倉一郎

(1)

A 人間はほかの動物が人間の知らない感覚を持つていることを知らないものだから、自分たちの科学が絶対的なもので、人間を幸せにすると勘違いしていますが、それは単なる無知です。

B 超音波なども最近になって、やつと気がついて科学の応用だなどと得意になっていますが、あんなものはもともとあります自然現象で日常生活に使っているものです。それなのに自分たちの無知を恥とも思わず、得意になつてしているのは

氣の毒なことです。

A わたしたちカラスにしてみると人間をふくめてあらゆる動物の寿命判定などというのは、自然と生まれながらに身についているのですが、人間はそれがわからない。そこで人間は科学をもちだして、科学的に解明しようとする。しかしこの科学的解明が怪しげで、世界の真理を解き明かすにはあまりにレベルが低いですね。

B 医者でさえあと何時間で生命が終わるかもわかんないんです。あきれたことです。私たちは後なん年寿命があるかなんていうことは、1キロ先からでもわかるというのに、驚きです。

A つまり人間は未開発種族だからいろいろな面で開発を進めなければならないために、科学という道具をつかって、懸命に進歩を目指しているんでしょう。

B しかし発展形態からみても結局はアリ社会かハチ社会程度の女王指導型君主国家になつて、終焉を迎えることになるでしょう。民主主義とか自由主義とか人間が平等で幸福そうにみえますが、互いに闘争だけがむき出しになつて、いたわりが足りないせいか、ギスギスしていくがみ合つているような生活です。

A 人間の國家をどのよつた形態で維持していくかは、これからとの政治の問題ですが、現在のままでは、もう限界です。

強国が弱国を搾取する植民地主義と現在の民主主義はあまり変わりばえしません。もっと平和でのどかな政治を案出しなければ、人間社会は早晚終わりでしょ。

B 政治学の研究ですね。科学と経済だけを重視した人間本位の政治でなしに地球上のすべての動物も植物も等しく平和で健康であるために、現代の人間社会に方向転換が迫られているのです。

(2)

A 人間の妊娠や出産 つまり生殖医療がずいぶん変わっているようですね

B 人間が爆発的な人口増加で危機を感じている中で、子供のない夫婦は必死になつて、子供を持ちたがるんです。

A 執拗に子供を欲しがるもんですから、医学もそれにこたえようとするんですね。

B 男女産み分け、不妊治療、体外受精 最近では体外受精した受精卵を赤の他人に委託して成長させたりしていますが、これを依頼した夫婦が離婚してしまつて、生まれた子供が行き場がないというよつなこともありました。こんなことでは困るといつので、六十歳を過ぎた夫婦の母親がいろいろと手を尽くして、妊娠をつとめ、代理出産を無事すませたと

いう話も報告されています。

A 六十歳を過ぎたような老人に出産させるなどとは、とんでもないことです。危険が充満しますよ。それをよっぽどいことをしたと言ふらす医者もあきれたものです。

B 生んだ子供が母親や父親を殺しかねないような世の中なのに、こんなにしてまで子供が欲しいいんでしょうか。

A 自然のままに生きるということが人間にとって、いかに大切であるかと云ふことが、わかつていません。

B 子供に過剰な期待を寄せるといふことは、人間の不幸につながるのです。

A 自然の経過で、妊娠も出産もするのなら結構なことですが、作為的にコントロールするのは、人間の将来にとって不幸を招きます。

B 人間はあまりに自然に対しても、人間自身に対しても余計な手をいれすぎています。これは十分反省しなければなりません。

A タバコを眺めて、こうして一羽で語り合つて、自然の美しさが、人間にはわからないのでしょうか。

B 気の毒なことです。

(3)

A 人間のやつていることが、どうもよくわかりませんね。誰でもいいから殺せばいいとは、どうこうとなんでしょう。われわれの世界ではとても考えられないことです。もつとも、戦争などというものは仕事として殺人をしているわけですから人間本来の本能なんでしょうか？

B いやそんなことはないでしよう。人間だって平和にのどかに暮らしている人だってたくさんいることを考えると、彼らは人口増加と機械文明の過剰発達のために精神構造の支障をきたしてしまったのではないかと思いますよ。子供を育てささやかな平和を守るというなりわいにつまづいて、精神異常をきたしてしまったのではないでしようか。

A 誰でもかまわず殺傷したり、母親を殺したり、父親を殺したりするということ自体、正常の精神状態ではできないことです。これを繰り返し報道したり、新聞や雑誌が書き立てるものですから、連鎖反応で同じような事件が次々とおこっているのではないでしょうか。

B つまり文明が人間のこころを蝕んでくるといふことでしょうか？

A そうだとおもいますよ。機械文明が進み、政治も経済も教育も医学もすすめばすむほど、人間のこころが劣化していくのです。寿命がのびればのびただけ、こころが貧しくなって人間は地上最悪の動物になつていくのです。

B 認知症もふえていますよ。あれは痴呆で、廃人ですかね。人間の寿命がのびれば、それに比例して増加しているんですね。

A 本来人間は楽観的な動物ですから、地球をわがもの顔にいじりまわして、それが人間の自然の征服などと考えていますが、とんでもないことです。人間はもっと謙虚になつて、自然の偉大さを認識し、人間は蟻や蛙と変わることない、ありふれた生き物であることを認識しなければならないのです。

B いたずらに機械文明をおしすすめ、科学といふ化け物にとりつかれているものだから、脳の思考中枢が破綻してしまったのでしよう。

A 文明といふかたのなつ怪物におどらわれて、人類は発狂し知的障害をおこしてしまったのです。ノンピューターの仮想世界と現実が混乱してしまって、人口爆発とあふれた廃棄物にまみれて、人類破滅の終局を迎えるよとしているのです。このまま進めばあと五十年くらいで人類は破滅することになるでしょう。

B 人類が破滅しても、崩壊した地球の修復はたいへんですかね。人類の後始末はわれわれカラスが担いますか。

